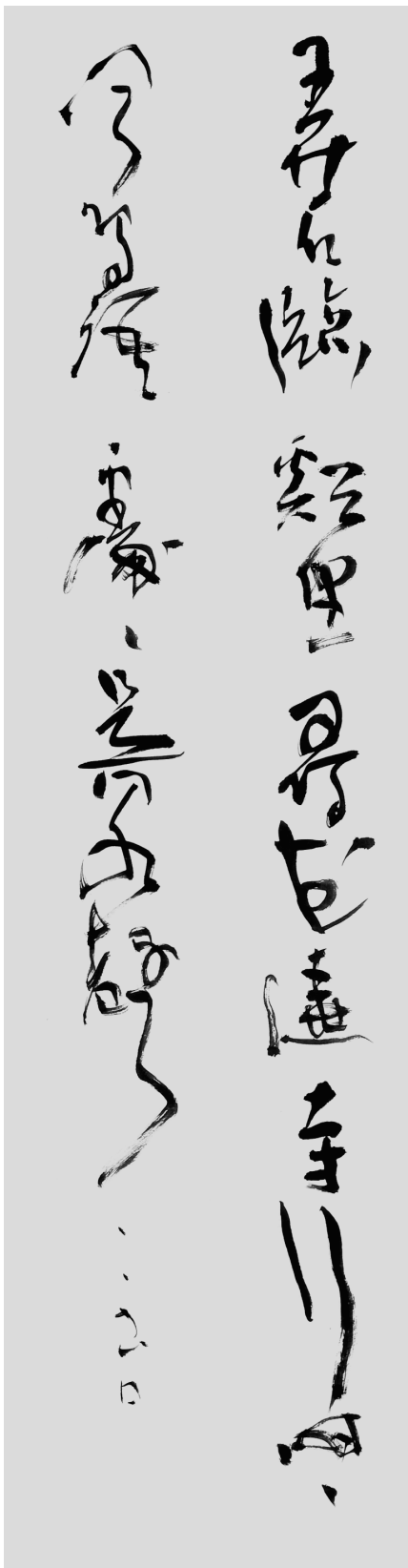


3月25日正午必着

明石春浦先生書



明石幸子書





馬首經從庾嶺回 王師到處悉平夷 擔頭不帶江南物 只插梅花一兩枝 (伯顔)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

陽春布德澤 (古樂府)

陽春德澤を布く

春光を浴びて萬物が生育すること

月下獨吟時 寒香暗襲衣 直疑春信早 胡蝶作團飛

(貢性之)

月下獨吟の時 寒香暗に衣を襲う 直ちに疑う春信の早きを 胡蝶團飛を作す

梅の繪が香いを發するかと思わるゝほど眞に迫って描かれている。その上を胡蝶が一團をなして飛んでいる。

茶人 (陸龜蒙)

茶人 陸龜蒙

天賦識靈草 自然鍾野姿

天賦 靈草を識り 自然 野姿を鍾む

閑來北山下 似與東風二期上

閑かに来る 北山の下 東風と期するが似し

雨後探芳去 雲間幽路危

雨後 芳を探ね去り 雲間 幽路危し

惟應下報春鳥 得共斯人知

惟だ応に報春鳥のみ 斯の人と共に知るを得べし

咲く花の照る日の坂にはぐれたる 吾が子を呼ばふその母のこゑ (太田 水穂)

半紙部規定課題A

3月25日正午必着

松門開  
瀬

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題 B

3月25日正午必着

行書

兩松門閑  
兩涯門閑

隸書

兩松門閑  
兩涯門閑

明石春浦先生書

草書

兩松門閑  
兩涯門閑

行草書

兩松門閑  
兩涯門閑

ただひとり双峰に対して過す中に年老い 松木立の中の門は両側よりせまる崖をびったりと閉ざす  
 經典を翻訳して芭蕉の葉に書きしるし 袈裟を掛けておくところに藤の花が散りかかる  
 石畳を敷いて、新たに井戸を開き 林を切り拓いて毎日茶を植えておられる  
 時折り海の南より訪れる客に逢い 南蛮のことばで誰方かなどとたずねている

贈「山中日南僧」 張籍

獨向「雙峯」老

松門閉「兩涯」

翻經上「蕉葉」

掛衲落「藤花」

磴石新開「井」

穿林日種「茶」

時逢「海南客」

蠻語問「誰家」

山中の日南の僧に贈る

張籍

獨り双峰に向かつて老ゆ

松門「兩涯」を閉ざす

經を翻して蕉葉に上せ

衲を掛けて藤花を落す

石を磴みて新たに井を開き

林を穿ちて日に茶を種う

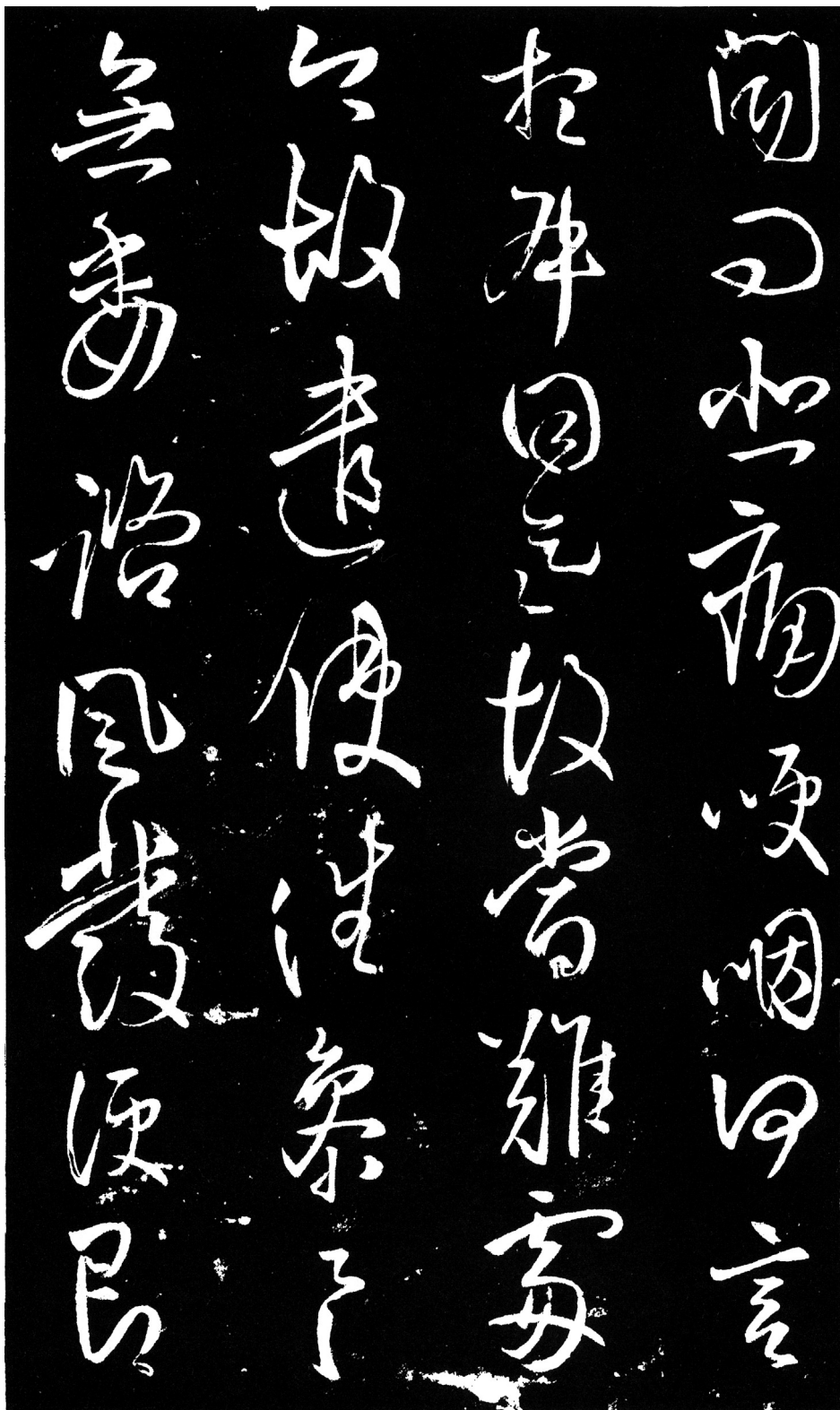
時に海南の客に逢い

蛮語して誰が家かを問う

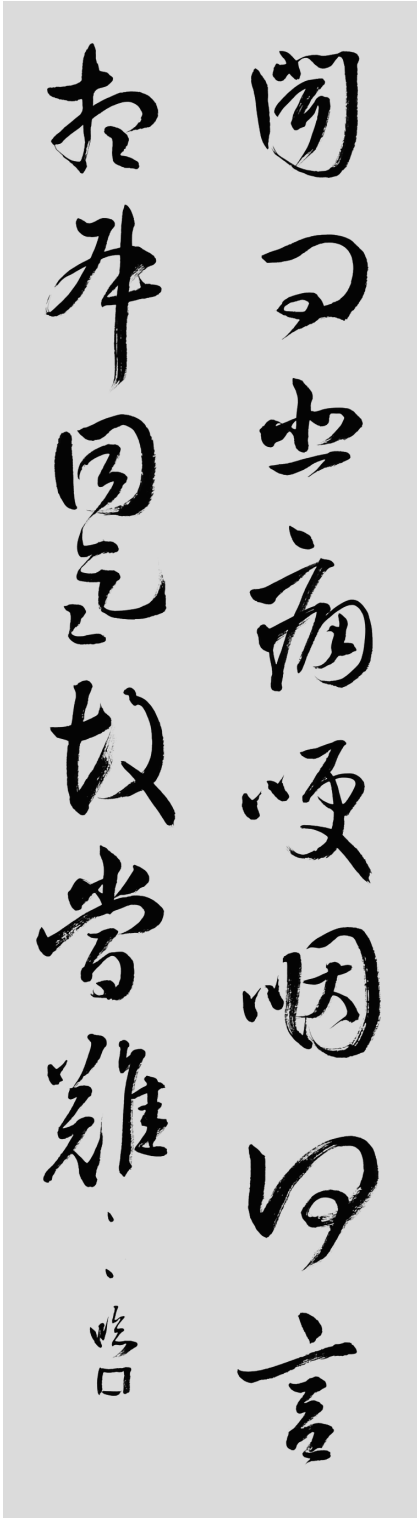
(出典)

朝日新聞社刊  
「三体詩」下より

3月25日正午必着



聞問し、悲痛哽咽、何ぞ言わん。想うに叔は同氣(の傷)、故に当まに処し難かるべし。今故らに使しを遣はわして往參す。乙いづ無委。諮とう。(両度大内の書を得たり。)  
奴の表を見ず。爺おや忌みて恒とに死せんと欲す。少時間て忽ち奴の手書を得たり。娘子の患いを報ず。憂惶うれ一時に頓とに解く。死せるが似にくなるも更たに生なきんと欲す。  
 今日已後、但頭ただ風発す。(信)便つち即ち報はす。



問問し、悲痛嗔咽、何ぞ言わん。想うに叔は同氣（の傷）故に当に（処し）難かるべし。



問問し、悲痛

明末清初 王鐸・擬山園帖 第一

明の時代は、行草書および細楷による書表現が多くを占めていたが、清朝になると篆隸書が大きな比重をもって加わり、更に明末から起こった条幅という作品様式がよりいっそう広く行なわれるようになって、書表現の幅が広まった。この時代（明末から清代初期）にかけて傑出した秀才書家が王鐸である。

王鐸は、若くして進士の試験に合格した。明朝に仕え、順調に出世を続けたが、明亡後は清朝にも仕えた為、二朝に仕えた王鐸の進退は世の非難の的となった。彼は詩文書画いずれもよくしたが、書においては特にすぐれ、後世、董其昌と並び称されている。

王鐸の作品といえは、連綿草で自由に動き回る書を思い浮かべるところだが、彼は鍾繇・王羲之以来の様々な古典を広く学び、年齢によって幾多の書風の変貌を見ることが出来る。

この擬山園帖は、王鐸の晩年八年間に書かれたものを刻し、全十巻にまとめたものである。ここにあげたものはその第一の中からのもので、王羲之の書風がうかがえる。その筆法は長鋒でゆっくり書いたように思えるが、当時の正統派の筆法からすると、奇怪にうつったところかと思う。従来の横做一点張りの筆法を嫌った彼独自の解釈により、成し得た結果であろうと思われる。（春廣）

3月25日正午必着

教育部毛筆



ち  
知

しき  
識

中学一年

雨宮春聲先生書



おん  
恩

し  
師

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

せい と  
生 徒

小学五年



横川春川先生書

しん ゆう  
親 友

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



3月25日正午必着



藤田幸春先生書

ぶん

がく

小学三年



細谷春誠先生書

じ

だい

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

は と 小学一年・幼年



森戸春濤書

小 川 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

3月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

ゆう便切手はイギリ  
スで考え出された

小学五年

一日の気温の変わり  
方をグラフに書こう

小学六年

成功は血のにじむ苦心  
と努力から生まれる

中学

山々の風光はわが心を  
清らかにしてくれる

一般(級位)

よし野山八重たつ峰のしら雲にかさねて見ゆる花櫻かな  
雲にかさねて見ゆる花櫻かな

一般(段位)

よし野山八重たつ峰のしら雲にかさねて見ゆる花櫻かな (藤原清家)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

し	の
ろ	や
い	ま
こ	を
う	か
ま	け
	る

幼年

た	た
	け
か	か
ぐ	ら
や	生
ひ	ま
め	れ

小学一年

し	赤
や	や
ぼ	青
ん	に
だ	ひ
ま	か
	る

小学二年

お	木
く	に
ま	登
で	る
見	と
え	
た	と

小学三年

が	空
る	に
広	む
場	か
の	っ
ふ	て
ん	ふ
す	き
い	上

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

はるたてば  
花とやみらん  
しら雪の  
かゝれるえだに  
うぐひすのなく

はるたてば  
花とやみらん  
しら雪の  
かゝれるえだに  
うぐひすのなく

はるたてば  
花とやみらん  
しら雪の  
かゝれるえだに  
うぐひすのなく



松永翠舟先生書

はるたてば  
花とやみらん  
しら雪の  
かゝれるえだに  
うぐひすのなく  
（素性法師）